

# ProMED-mail 情報 2018年 7月版

ProMED-mail <http://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介します。FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <http://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
31日	ノロウイルス感染症 米国	ケンタッキー州のフードコートで食事をしたほとんどが、翌日から翌々日に発熱、嘔吐、下痢を発症し350人のノロウイルス感染を確認。7月20日、多数の従業員が発症した店舗は自主的に営業停止し、フードコート全体も消毒のため7月23日まで閉鎖した。
28日	日本脳炎 台湾	7月28日、雲林県での感染第1例を公表した。台湾では31例目。この患者は52歳男性で6月末に感染した。高熱・錯乱・虚脱感があり、入院中。予防接種歴なし。患者の自宅近くに3匹の豚が飼われていた。台湾国内の流行のピークは、5月～10月。
26日	狂犬病ワクチン 中国	中国当局は、吉林省にあるワクチン製造会社が、狂犬病ワクチンの製造過程での重大な違反をしたと発表、同社吉林支店のワクチン製造資格を取り消した。中国の狂犬病ワクチン市場の約23%を占め、昨年は約354万セットを生産した。そのワクチンは昨年までにインド、カンボジア、ナイジェリアで登録されたが、輸出量は不明。
26日	発疹チフス インド	インド東部のミゾラム州では、7月初旬にルングレー県Pangzawl村で1人感染死亡、107人以上感染。7月12日と23日にアイザウル県Sawleng村で11歳と45歳の患者が死亡し、50人の疑い患者のうち10人診断、アイザウル県全体で30人以上診断。標準的診断は間接蛍光抗体法によるが、現地での診断法に関する言及はない。
24日	リフトバレー熱 ウガンダ	6月28日に流行が確認され、7月17日現在、ウガンダの西部と中央部より、疑い症例2人を含む8人の感染と、うち3人の死亡が報告された。この感染者のうち、出血熱はインギロ、キルフラ、セブブレ、ムバラ、イバンダ、カセーゼの地区で報告され、インギロ地区で2人が死亡した。この疾患は、感染した家畜などの動物の血液に接触、感染した動物の肉や乳製品の消費、感染した蚊の刺咬により感染する。
20日	腸チフス パキスタン	イスラマバードの国立衛生研究所によると、最近の6ヶ月間に国内で2,000人以上の多剤耐性サルモネラ菌の感染者が確認された。経口抗生剤はアジスロマイシンだけが有効で、静注薬は高価で一般的な使用困難。2016年11月以降、シンド州では300人以上の患者が発症。英国・米国でもパキスタン旅行による輸入例あり、他国に拡散の危機。
18日	マラリア ベトナム	Binh Phuoc州南部で、2018年上半期に死亡1人を含む973人のマラリア患者が発生。その中でも、Bu Gia Map地域では666人(68.5%)が報告され、昨年同期の349人を大きく上回った。患者の増加は、雨期の長期化による。
18日	マラリア インド	デリーで、先週1週間で16人の新患者が報告され、今年の患者数は122人に達した。6月28日、知事は、自治体や関連機関に蚊の繁殖対策を強化するよう指示した。昨年の2017年11月7日時点のデリーでの感染者は552人で、三日熱マラリアの継続的な感染による再発も報告された。
18日	デング熱ワクチン フィリピン	2018年6月13日発行のNEJMIに掲載された、デング熱ワクチンの安全性と有効性をみるケースコホート研究の紹介。デング熱未感染2歳～16歳のワクチン接種後5年間のデング熱感染による入院率は3.06%で、ワクチン非接種の対照群の入院率の1.87%より有意に高かった。一方、デング熱既感染2歳～16歳のワクチン接種後5年間のデング熱感染による入院率は0.75%で、ワクチン非接種の対照群の入院率の2.47%より有意に低かった。
14日	トキソプラズマ症 ブラジル	サンタ・マリアにおける6月29日より2週間の感染者は27人で、2018年の感染者は621人となった。このうち、54人は妊婦、3人は胎児死亡、3人は中絶。ブラジル感染症学会は、生肉や非衛生肉を食べないこと、きれいに洗った野菜果物を食べることで、猫の糞との接触を避けることを推奨している。
12日	MMRワクチン サモア	2018年7月6日、異なる地域在住の生後約12ヶ月の2人の男女児が、Safotu 地域の病院で、同一製造のMMRワクチンを接種され、数時間後に死亡した。それを受け、保健当局は、MMRワクチンを全国的に回収した。そのワクチンは、UNICEF提供によりインドより輸入された。
1日	原発性アメーバ性髄膜脳炎 パキスタン	26歳男性が感染死亡し、本年、カラチで4人の死亡となった。Naegleria fowleriという原生生物(アメーバ)が原因。アメーバは暖かい水域に生息し、水泳・沐浴の際に、汚染された水を鼻から吸い込むことで脳に感染する。水の塩素化や煮沸で排除可能。